

受講番号 18012 学校名 高知東高等学校 氏名 中村 里歩

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 29 名

科目名 リーディング 単位数(授業時数) 4 時間 使用教科書名 Power On(東京書籍)

クラスの様子・特徴

英語の得手、不得手によらず進路に関係しているといった理由で選択したケースが3割近い生徒に見られる。そのため、クラス内の学力差が大きく、いかなる生徒も達成感が得られる授業のレベルを設定することが難しい。

問題の確定

語彙力、文法理解に不安があり、文の要旨を把握することが苦手である。自発的に思考し答えを導き出そうとする姿勢があまり見られない。

予備調査

A 授業の観察

語彙力、文法力に不安があり、まとまりのある文を読んで要旨を把握することが苦手である。わかなくなると途中であきらめてしまう傾向にある。授業への姿勢が受け身で、自ら進んで十分思考し答えを導き出そうとする姿勢があまり見られない。

B 生徒による授業評価

授業評価アンケートで、約20パーセントの生徒が授業がわからない、楽しくない、進む速度が速いなどの不満を抱いていることがわかった。

C 学力データ

中間考査 平均点:67.5 最高点:99 最低点:30
期末考査 平均点:65.1 最高点:99 最低点:24
語彙サイズテスト 3年次生全員履修の英語・習熟度Aクラス平均 1867/3000

リサーチ・クエスチョン

一定の時間内に、まとまりのある文を内容を理解しながら読めるようになるためにはどうすればよいのか。

仮説・実践・検証

仮説1

速く正確に読むことを最終的な目標とし、時間制限を設けた音読テストを実施することにより、読むことへの抵抗感が無くなると同時に、単語力、文法力が身につくだろう。

実践1

あらゆる音読方法を取り入れて授業内で一定の練習をさせる。また、家庭での練習を毎日するように指導する。制限時間を超過した場合、再テストを行い、繰り返し練習すれば必ず上達することを体感させる。

検証1

教科書本文について、ペアワーク、シャドーイング、スラッシュリーディング、同時通訳などの音読方法を取り入れた。1分間の制限時間を設け、授業内で練習した。テストで1分以内に読めなかった生徒は再テストを課した。生徒の中には、できるまで何度も挑戦する者もあり、仲間同士で1、2秒の差を競う姿が見られた。繰り返し練習すれば個人差はあるが、必ず上達することが実感できたように思う。

仮説2

短いパラグラフを暗唱させることにより語彙力、文法理解力伸長の手助けとなるだろう。

実践2

歴史上の有名なスピーチを取り上げ、一段落の短い文を何度も音読練習することで文を覚えさせ、暗唱テストを実施する。

検証2

キング牧師の有名なスピーチ「I have a dream」を教材として取り上げた。当時の時代背景を知り、キング牧師の生き方に感銘を受け、共感することで、進んで学習活動(音読練習)を行う姿勢が見られた。短い文ではあるが、生徒は全員が各自選んだ段落をきちんと暗唱することができた。生きた教材を使い、実在の人物について学ぶことにより、他の教材とは異なる効果が得られたように感じた。

仮説3

高校生の生活に即した身近な事柄を題材とした文を味わいながら読むことにより、英語を読むことへの抵抗感がなくなり、さらなる学習意欲へつながるだろう。

実践3

・生徒各自が自分自身のことについて3文程度の短い英文(ラブレター)を作り、クラスで全員の作品を披露する。(ペンネームを使い、実名は伏せる。)
・好きな作品に投票するコンテスト形式を導入し、クラス内のムードを盛り上げる。

検証3

うまくできるか半信半疑だったが、最終的に全員が完成させることができた。作品集としてまとめてみると、まずまずの出来であったと思う。実名を伏せることで素直な思いを文面に出すことができた。冊子にまとめて、一人ひとりの作品を順番に読んだ後、好きな作品に投票するコンテストを行った。活動全般を通して概ね、関心を示し、集中して取り組む姿が見られた。授業評価アンケートでは、9割近くが好意的な評価を示した。

研究の成果

1学期の早期より速読の練習を取り入れることで、繰り返し音読練習をすることに抵抗がなくなったように思われる。歴史上の事実に基づいた生きた教材を使用することで、生徒は苦痛な暗唱を乗り切ることができたように思われる。高校生の実生活に即した教材を取り上げることで、生徒たちは自ら書かれていることを理解しようと努めた。自分たち自身が苦勞し、悩みながら完成させた作品を通して、誰かを思う切ない気持ち、優しさ、愛情などをクラス内で共有することができたことは、収穫であった。また、この研修を通して即授業に生かすことができる実践例を得ることができた。

今後の授業改善の課題

クラス内で習熟の度合いが異なり、どの生徒にも充実感、達成感を持たせることができるように授業内容のレベルを設定することの難しさを実感した。今回は読むことに焦点を絞って研究してきたが、同時に語彙力の伸長も試みた。しかし、限られた授業時間内では力の定着が十分でなく、家庭学習をさらに促す手立てを考える必要がある。一つの方法に固執することなく柔軟な姿勢を持ち積極的に試みる姿勢を持続したい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-845-5751

電子メール

riho_nakamura@kt4.kochinet.ed.jp